

緑地雑草科学講演会のご案内

都市河川における望ましい植生とは — 堤防に咲く“菜の花”から考える —

講師: 中山祐一郎氏 (大阪府立大学現代システム科学域准教授)

日 時: 2016年3月21日 15時~16時30分

場 所: 兵庫県民会館 10階「福の間」 TEL: 078-321-2131

(新神戸駅, 三宮駅からは地下鉄で1駅「県庁前」下車, 東出口1から右へ)

参加費: 無料

河川敷は、年間数回の刈取りで維持され、本来は多様な在来植物が生育し得る半自然草原であり、生物多様性を担保し人間や他生物に様々な活動の場を提供する生活圏環境の重要な構成要素です。しかし、そこは外来植物が侵入しやすい場所でもあります。侵略的な外来植物は積極的な排除の対象になりますが、排除の過程で、河川が唯一の生育地になっている絶滅危惧植物など重要な在来種を、意図に反して衰退させる可能性もあります。このように河川敷は、身近な自然植生をどうしたらよいか、その議論を提供する格好の場といえます。この講演で題材にされる、春に都市河川を黄色く彩る“菜の花”の仲間は、本来は河川に生育する植物ではなく、在来種を競争によって排除したり、堤防を弱体化させたりする外来植物です。この“菜の花”の咲く植生がどのような環境のもとで成立しているのか等、演者のこれまでの調査・研究成果をご紹介頂き、いろいろな立場から“望ましい植生”と“その維持の在り方”について意見を交わし、共に考えたいと思います。

講師プロフィール

京都市出身、農学博士。
京都大学大学院農学研究科修了、日本学術振興会特別研究員、大阪府立大学農学部助手等をへて現職。

専門は雑草学・環境学。とくに在来草本への外来種の影響について、遺伝学的・生態学的側面から様々な研究に取り組んでいる。

